

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度技術情報第21号（サトウキビのメイチュウ類）について（送付）

サトウキビのメイチュウ類について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。



なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosho/index.html>）にも掲載しています。

令和7年度 技術情報第21号

奄美・熊毛地域では、サトウキビの新植夏植において、メイチュウ類の発生ほ場率が平年より高くなっています。今後、生育初期でメイチュウ類の被害を受けやすい新植秋植ほ場では、被害の拡大が懸念されるため、適切な防除を実施してください。

1 対象病害虫 メイチュウ類（カンシャシクイハマキ、イネヨトウ）

2 対象作物 サトウキビ（新植秋植）

3 発生状況および情報の根拠

- （1）令和7年10月の巡回調査において、新植夏植ほ場におけるメイチュウ類の発生ほ場率は、熊毛地域では40%（平年14%）、奄美地域では40%（平年20%）と、いずれも平年より高かった（表1、2）。
- （2）奄美地域の島別の発生ほ場率は、奄美大島、喜界島および徳之島では平年より高く、奄美大島および徳之島では発生程度が「中」のほ場も認められた（表2）。
- （3）メイチュウ類の発生ほ場では、カンシャシクイハマキおよびイネヨトウの両種が確認された。
- （4）11月の気温は高いと予想されており、生育初期でメイチュウ類の被害を受けやすい新植秋植ほ場では、被害の拡大が懸念される。

4 防除上注意すべき事項

- （1）ほ場内および周辺の除草を徹底する。
- （2）培土時には粒剤を施用し、土壌とよく混和させ、効果を安定させる。
- （3）散布剤のサムコフロアブル10は速効的であり、芯枯れ被害の多いほ場では、7～10日間隔で複数回（3回以内）散布する。
- （4）農薬の使用にあたっては、ラベルをよく確認し、農薬使用基準を遵守するとともに、飛散防止に努める。

5 参考データ

表1 熊毛地域の新植夏植ほ場におけるメイチュウ類の被害発生ほ場率（10月）

調査島名	調査年	調査 ほ場数 (筆)	発生 ほ場数 (筆)	発生 ほ場率 (%)	発生程度別ほ場率 (%) 注2)				
					甚	多	中	少	無
種子島	本年 ^{注1)}	10	4	40	0	0	0	40	60
	平年 ^{注3)}	10	1.4	14	0	0	0	14	86

注1) 本年（令和7年）の調査月日：10月15日

注2) 発生程度 甚：被害茎率21%以上，多：被害茎率11～20%，中：被害茎率6～10%，少：被害茎率1～5%

注3) 平年値：平成27年から令和6年までの平均値

表2 奄美地域の新植夏植ほ場におけるメイチュウ類の被害発生ほ場率（10月）

調査島名	調査年	調査 ほ場数 (筆)	発生 ほ場数 (筆)	発生 ほ場率 (%)	発生程度別ほ場率 (%) 注2)				
					甚	多	中	少	無
奄美大島	本年 ^{注1)}	35	17	49	0	0	3	46	51
	平年 ^{注3)}	35	5.8	17	0	0	1	16	83
喜界島	本年	10	5	50	0	0	0	50	50
	平年	10	2.8	28	0	0	0	28	72
徳之島	本年	10	5	50	0	0	10	40	50
	平年	10	1.3	13	0	0	2	11	87
沖永良部島	本年	10	0	0	0	0	0	0	100
	平年	10	1.6	16	0	0	3	13	84
与論島	本年	7	2	29	0	0	0	29	71
	平年	10	3.5	35	0	0	6	29	65
地域全体	本年	72	29	40	0	0	3	37	60
	平年	75	15	20	0	0	2	18	80

注1) 本年（令和7年）の調査月日：10月9～20日

注2) 発生程度 甚：被害茎率21%以上，多：被害茎率11～20%，中：被害茎率6～10%，少：被害茎率1～5%

注3) 平年値：平成27年から令和6年までの平均値